

令和8年

季刊

春季号

Vol.97

亞東



頼清徳総統と衛藤征士郎会長 2026年3月24日



一般社団法人日本台湾親善協会

Japan-Taiwan Friendship Association

一般社団法人日本台湾親善協会の概要

名称 一般社団法人日本台湾親善協会

(英文名 Japan-Taiwan Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七-四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに民主主義と自由を信条と

する日本と台湾との相互理解と交流を促進して

日本と台湾との関係強化と発展に寄与する。

事業

① 日本と台湾との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介

③ 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住する台湾関係者及び在日留学生に対する交流事業

⑤ その他本会の目的を達成するために必要な事業

日本台湾親善協会の変遷

社団法人日本台湾親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年、東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

二〇一二年一月六日、「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、二〇一三年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任され、会長代行の大江康弘参議院議員が就任、二〇一八年五月からは元衆議院副議長の衛藤征士郎先生が会長に就任されました。

日本と台湾との友好交流を進展させ関係の強化を図り、アジアの繁栄と平和に貢献するため二〇一八年九月に名称を「日本台湾親善協会」に変更しました。会員一同、会長のもと、叡智を結集し努力を続けています。

季刊「亜東」令和八年 春季号・目次

一般社団法人日本台湾親善協会・概要・変遷

目次・協会役員名簿

「令和八年 新春互礼会」を開催

総統が日本台湾親善協会と会見

行政院長が日本台湾親善協会と会見

謝長廷会長 台湾日本関係協会会長と会食

台湾表敬訪問記

事務局だより

二頁

三頁

四頁

六頁

一〇頁

一三頁

一五頁

一八頁

令和6年6月20日 現在

役員名簿

名誉会長	玉澤徳一郎								
会長	衛藤征士郎								
副会長	山本順三	張	建国	張	碧華				
	並木正芳	岩田	善信						
専務理事	赤松 則宏								
業務執行理事	藤山 雅康	笹岡	恭亮						
	榎本 有里								
理事	25名								
	衛藤征士郎	張	建国	張	碧華	山本	順三	並木	正芳
	赤松則宏	藤山	雅康	益山	家彰	笹岡	恭亮	森田	康善
	岩城光英	榎本	有里	富田	茂之	石沢	散正	岩見	善哲
	多忠貴	加藤	光淑	富田	敏和	熊沢	宏一	浅山	正
	柴田徳光	李	ハ口ル下	平岩		岡本		御山	
監事	2名								
			鈴木 慶一				吉原 徹		
事務局			赤松 則宏				李 孔曉		

一般社団法人 日本台湾親善協会

「令和八年 新春互礼会」を開催



本協会は二月一日、
「令和八年 新春互礼会」を
都内のホテルルポール麹町
で開催した。本協会の顧問
を務める衆参両院の国会議
員、役員および会員、各僑
胞団体のリーダー、台北駐
日経済文化代表処から李逸
洋・駐日代表をはじめ各部
門の責任者らが出席した。
李逸洋・駐日代表が日本
台湾親善協会の「新春互礼
会」に出席

台北駐日経済文化代表処の李逸洋代表はあいさつの中で、日本が近年、中国による経済的圧力やサプライチェーンのリスクに直面していることについて言及し、「中国は日本に対し軍民両用品目について輸出を禁止しており、レアアースは影響が大きい分野だ。日本経済は中国への依存を減らし、より安全で強靱な道を進む必要がある。中国依存の経済に戻れば、日本経済の大きな発展はない」との見方を示した。

これに対し、「台湾と日本は強い補完関係にある。日本の一

七の成長戦略分野は、台湾の戦略産業と高度に重なっている。台湾は、世界のハイテク産業にとって最も重要な生産拠点であり、日本は基礎研究、材料、精密技術、人材などの面で世界トップレベルだ。台湾と日本の強みが結び付けば、一十一が二以上の成果を生み出せると確信している」と強調した。

中国の国内情勢についても、「最近、中国内部は平穏ではない。大きく注目されているのは、中央軍事委員会副主席の張又俠氏と参謀長の劉振立氏が失脚、逮捕されたことだ。中国共産党の二〇大（第二〇回党大会）で、中央軍事委員会は七人だったが、今は五人が汚職や権力闘争で失脚し、残っているのは習近平氏と張升民氏だけだ。

これは中共の建軍以来、もっとも深刻な権力闘争だと言える」と指摘した。

さらに、「この状況は二つの大きな危機を生む可能性がある。第一に、内部の不安定さが強まり、指導部の失脚が混乱や動揺を引き起こす恐れがある。第二に、集団意思決定の仕組みが弱く、意思決定が一人に集中しているため、国内の不满



を対外行動に転嫁する形で、強硬な軍事行動に出る危険が高まる。そうなれば、インド太平洋地域の平和と安定は大きな脅威に直面する。私たちは、中国内部の人事闘争や混乱が、対外行動へ転じて、より大きな脅威にならないか、強く懸念し警戒している」と述べた。

李・駐日代表は、日本台湾親善協会の長年にわたる台湾への力強い支持に感謝の意を表すと共に、「このような友情と協力は台日関係の深化を支える重要な基盤だ。今後も衛藤征士郎会長のリーダーシップの下、同協会と台湾との関係がさらに深まることを願っている」と述べた。あいさつの冒頭では今回の衆議院選挙での高市早苗首相が率いる自民党の勝利に祝意を表し、

これにより日本経済のさらなる発展に期待を寄せた。

日本台湾親善協会の衛藤会長はあいさつで、戦略的互恵関係はきわめて大事であり、我々は日本と台湾との関係をより盤石なものとしていくと強調した。その具体例として、台湾の国際機関への加盟、参加についても支持体制を整え推進していく方針を示した。



総統が日本台湾親善協会と会見

「台湾・日本関係の安定的な発展を期待 地域の経済繁栄を共に促進」
頼清徳総統が「日本台湾親善協会」の衛藤征士郎会長一行と会見



頼清徳総統は本日（二〇二六年三月二四日）午後、

「日本台湾親善協会」の衛藤征士郎会長一行と会見し、

同協会が長年にわたり台湾を支援し、台湾と日本の各分野における交流・協力を促進してきたことに感謝の意を表した。また、台湾と日本は半導体や人工知能などの重要分野で緊密な協力体制を築いているほか、両

国間の相互訪問規模も拡大

し続けているとし、二国間関係が引き続き安定して前進し、既存の基盤の上に二国間協力関係をさらに拡大させ、地域経済の発展により多くの貢献ができることを期待すると述べた。

総統は挨拶の中で、衛藤征士郎会長が「日本台湾親善協会」

を率いて再び台湾を訪問したことを歓迎し、後ほど来賓と多くの重要課題について深く意見を交換し、双方の協力を継続的に拡大していくことを期待すると述べた。

総統は、衛藤会長が長年にわたり台湾を強力に支援し、日台関係に多大な貢献をしてきたことに感謝の意を表し、「日本台湾親善協会」が長年にわたり衛藤会長の指導の下、日台の国会および各分野における交流を積極的に促進し、相互理解と信頼を絶えず深め、日台の友好関係をさらに高めてきたと指摘した。また、総統は台湾国民を代表して、来賓に対し心からの感謝の意を表した。

総統は、二〇二四年に台湾の花蓮で発生した震災について言及し、「日本台湾親善協会」が義援金を寄付し、被災地の復興を支援してくれたことに、台湾は深く感謝し、感動していると述べた。日本の各界からの温かい配慮と支援は、防災対応や社会防衛のレジリエンス強化における台湾と日本の協力を、良好な基盤を築くものとなった。

総統は、近年、権威主義が拡大し続けているため、台湾海峡の平和と安定が国際社会から高い関心を集めていると指摘した。また、日本政府が国際的な場でたびたび台湾海峡の平和と安定の重要性を強調していることに感謝を表明した。これには、先週、高市早苗首相が米国のトランプ大統領と首脳会談を行い、会談後の共同声明において、日米首脳が台湾海峡の平和と安定の維持に尽力することを再確認したことも含まれ、地域安全保障に対する国際社会の重視と支持を示している。

総統は、地域の課題に直面する中、台湾は自らの防衛能力を継続的に強化するだけでなく、日本や理念を共有する友好・同

盟国との協力を深化させ、共に地域の平和、安定、繁栄を維持していくと強調した。さらに、現在、台湾と日本の産業界は、半導体や人工知能などの重要分野において緊密な協力体制を築いており、グローバルなサプライチェーンの安定に重要な役割を果たしている。台湾と日本は、既存の基盤の上に、さらなる協力を拡大し、両国に発展と繁栄をもたらすとともに、地域の経済発展にもより多くの貢献ができると確信している。

総統は、昨年の台湾・日本間の相互訪問者数が八二〇万人を突破したことを挙げ、将来的には一、〇〇〇万人を超えることを期待していると述べた。「日本台湾親善協会」はこれまで何度も代表団を組織して台湾を訪れ、交流を行ってきた。衛藤会長および来訪者の皆様のご支援のもと、台湾と日本間の相互訪問の規模が持続的に拡大し、双方の観光および経済発展を促進し、両国民の親睦を一層深め、台湾と日本の関係が引き続き安定して前進することを願っています。また、大統領は、今回の訪問団の行程が円満かつ順調に



進み、台湾でより深く素晴らしい思い出が残るよう祝福の言葉を述べました。

衛藤会長は挨拶の中で、まず多忙な中、時間を割いて面会に応じてくださいと総統に心からの感謝を表明した。また、「日本台湾親善協会」の歴史は一九四九年の「華南クラブ」に遡り、その後一九七一年に「社団法人亜東親善協会」へと改組され、二〇一八年に現在の名称に変更されて以来、長きにわたり台湾と日本間の相互理解と交流の促進に尽力し、二国間関係の深化を継続的に推進しており、その核心的な理念は一貫して変わっていないと指摘した。

衛藤会長は、総統が昨年の国慶節演説において、民主的な台湾はインド太平洋の平和と安定の要であり、現状維持に尽力すると指摘したことを挙げた。また、台湾海峡の平和と安定は、地域の経済繁栄の重要な礎と見なされている。さらに、最近の日米首脳会談でも関連する合意が形成され、日本と米国の大統領は、台湾海峡の平和と安定が地



域の安全保障および世界の繁栄にとって極めて重要であることを一致して強調した。

衛藤会長は、現在の変動の激しい国際情勢の下、台湾の自由、人権、法の支配などの面での取り組みが国際社会から高く評価されており、関連する中核的価値のインド太平洋地域における重要性も高まり続けていると述べた。また、同氏は、「環太平洋パートナーシップに関する包括的かつ先進的な協定」(CPTPP)、「世界保健機関」(WHO)、「国際民間航空機関」(ICAO)、「および「国際刑事警察機構」(ICPO-INTERPOL) など、台湾の各種国際機関への参加を全面的に支持し、断固たる支持の立場を示すことを強調した。

台湾と日本の交流について、衛藤会長は、現在、双方の往来者数が八〇〇万人を突破しており、今後は一、〇〇〇万人を突破することを目標に努力していくと指摘した。また、民間交流も同様に極めて重要であり、特に青少年間の交流については、今後、台湾と日本の高校生および中学生によるより頻繁かつ深い交流が促進されることを期待すると述べた。さらに、今後も台湾と手を携えて前進し、各分野の協力関係をさらに深化させていくことを期待すると語った。

来賓一行は、林佳龍外交部長および台湾日本関係協会副秘書長の林郁慧氏に同行され、総統府を訪れて総統に謁見した。席上には、潘孟安総統府秘書長および呉釗燮国家安全會議秘書長も同席した。





日本台湾親善協会と会見

卓行政院長、台湾と日本の「強者同士の連携」を期待
世界に向けてさらなる発展の機会を模索

日付：二〇二六年三月二十五日

出典：報道広報処

卓榮泰行政院長は本日（二五日）、「日本台湾親善協会」の衛藤征士郎会長（元衆議院議員）ら一行と会見し、衛藤会長が国会議員および「日本台湾親善協会」会長在任中、一貫して台湾・日本間の友好関係を推進し、長年にわたり双方の交流・協力の促進に多大な貢献をしてきたことに感謝の意を表した。また、

卓院長は、高市早苗首相が提唱した「一七の戦略分野」が、今後、行政院が提唱する「一三の戦略産業」と十分に連携し、台湾と日本が「強強連合」を組んで、共に世界に向けてより大きな発展の機会を掴んでいくことを期待していると述べた。

卓院長は、台湾と日本はともに地震、台風、水害が頻発する地域に位置しており、自然災害が発生するた



びに双方が温かい手を差し伸べて互いに助け合い、台湾と日本の国民の深い絆を示していると指摘した。昨年（二〇二五年）九月、台風ハガサが台湾を襲い、花蓮県の馬太鞍溪で土石流による湖の決壊が発生した際、「日本台湾親善協会」が募金活動を通じて台湾を支援してくれたことに感謝するとともに、日本政府が「水位監視・観測設備」を寄贈してくれたことにも深く感謝している。これにより、台湾は土石流湖の水位状況をリアルタイムで把握できるようになり、台湾国民の安全に多大な助けとなった。卓院長は、日本の防災庁が今年（二〇二六年）に発足することを踏まえ、今後、災害情報、早期警戒システム、防災・救災の経験などの分野において、双方がさらなる交流と協力を深め、共に人々の生命と財産の安全を守っていくことを期待していると述べた。

卓院長は特に、高市早苗首相が最近、大成功を収めた訪米外交を完了し、豊かな成果を上げたことを祝賀するとともに、日米首脳会談や日中首脳会談などの重要な場で、台湾海峡の平和と安定、および武力による脅威を受けないことの重要性を継続して強調してくださったことに深く感謝した。先日、高市首相が米国のトランプ大統領と会談した後、米国側が会談後に発表したファクトシートには、両国の指導者が台湾海峡の平和と安定を維持することを約束し、これを地域の安全保障と世界の繁栄に不可欠な要素と見なしていること、また対話を通じて兩岸

問題を平和的に解決することを支持し、武力や威嚇を含むいかなる一方的な現状変更の企図にも反対することが明記されていた。さらに、日本の茂木敏充外務大臣も米国のヴァンス副大統領に対し、中国による一方的な武力や威嚇による現状変更などの問題は、日本だけでなく米国にも影響を及ぼし、全世界が極めて注目している旨を伝えた。

卓院長は、台湾と日本は互いに第三位および第四位の貿易パートナーであり、昨年^二の二国間貿易総額は八四八億五一〇〇万米ドルに達し、両国の経済貿易関係が引き続き堅調に発展しており、互いに重要な経済貿易パートナーであることを示している^{と述べた}。国際情勢および日本国内の建設・発展に対応するため、高市首相は「一七の戦略分野」を提唱しており、これは頼^三總統が推進する「五大信頼産業」と多くの共通点や協力の余地がある。今年、行政院はさらに「一二三の戦略産業」を提唱した。これには、シリコンフォトニクス、量子技術、AIロボット、無人機、バイオ医療、重要鉱物、基礎公共建設および都市再生、文化・クリエイティブ産業およびスポーツ産業、兆元規模の観光産業などが含まれており、将来的に高雄市長の提唱する「一七の戦略分野」と十分に連携し、経済安全保障やサプライチェーンのレジリエンスなどの各方面において、台湾と日本が「強者同士の連携」を図り、共に世界に向けてより大きな発展の機会を掴んでいきたい。

卓院長は、台湾と日本の食文化は非常に似ており、台湾の人々は日本の食品を大変好んでいると述べた。昨年一月、台湾は国際基準、科学的根拠、および長期にわたる安全検査に基づき、日本の福島県を含む^四の県の食品を通常の管理体制に戻した。最後に、卓院長は、今回のワールド・ベースボール・クラシック(WBC)において、台湾と日本双方が理想的な成績を残すことはできなかったものの、今後も共に努力し、再び世界のスポーツ界に進出することを期待していると述べた。

続いて、衛藤会長は挨拶の中で、「日本台湾親善協会」の設立の歴史は古く、その前身は一九四九年に設立された「華南クラブ」であり、その後、一九七一年に「社団法人亜東親善協会」へと改組され、二〇一八年に「日本台湾親善協会」と改称された。設立以来、台湾と日本間の相互理解と交流を積極的に推進し、両国関係の長期的な発展に寄与してきた。五八年前、自身が大学生だった頃、団長として学生たちを率いて台湾へ交流訪問に赴いたことは、今でも忘れられない思い出となっている。政治、経済、文化、スポーツなどの分野に加え、青少年教育交流の推進にも力を入れており、日本各地の小中学校の台湾への修学旅行を促進している。

台湾海峡問題に関して、衛藤会長は、頼清徳總統が昨年^五の国慶節演説で「民主的な台湾はインド太平洋の平和と安定の要

あり、台湾は国際社会の一員として責任を果たし、現状維持に努め、台湾海峡の平和と安定を守り、地域の繁栄と発展を促進する」と述べたことに強い印象を受けたと強調した。衛藤会長は、世界情勢が急激に変化している現在、台湾の民主主義、自由、人権、法の支配は、国際社会から高く評価されているだけでなく、インド太平洋地域の平和と安定にとってますます重要な鍵となる力であり、日本も引き続き、台湾が環太平洋パートナーシップに関する包括的かつ先進的な協定（CPTPP）、世界保健機関（WHO）、国際民間航空機関（ICAO）、国際刑事警察機構（INTERPOL）などの国際機関に参加することを全面的に支持していくと述べた。

最後に、衛藤会長は、WBC観戦のために来日した卓院長に敬意を表し、「二〇二四年台日国会議員サッカー親善試合」に続き、今年の秋に第二回台日国会議員サッカー親善試合が開催されることを期待すると述べた。

訪問団には、「日本台湾親善協会」の張建国副会長、張碧華副会長、並木正芳副会長、岩田善信副会長、森康郎理事、富田家彰理事、平岩敏和理事、吉原徹監事、榎本昌憲会員、佐藤千晶会員、羽田善彦会員、秋本隆太会員、縫田悦男団員、李孔暎団員らが含まれており、外交部の陳明祺次長および台湾日本関係協会の林郁慧副秘書長に同行され、行政院を訪れて卓院長



に面会した。行政院の馬永成政務委員および李慧芝報道官も同席した。

謝長廷会長 台湾日本関係協会会長と会食

令和八年三月三日 午後 台湾の日本料理店「夜月岩」にて
令和八年三月二十五日 「円山大飯店」にて

日本台湾親善協会は、会長の衛藤征士郎氏、副会長の張碧華氏、張建国氏らが率いる代表団が台湾を訪問しました。私が駐日大使を務めていた間、毎年同協会の大会に出席しており、皆とは親しい間柄でした。二年ぶりの再会となり、今回台北で再会して食事を共にしましたが、和やかな雰囲気の中で、大変嬉しく思いました。



日本台湾親善協会は、もともと「亜東親善協会」という名称でしたが、衛藤氏の時代に改名されました。当時は多くの類似団体が「日華」と名乗っていましたが、彼は率先して「日本台湾」と改名し、台湾を強く支持しました。これは容易なことではありませんでした。彼は台湾の良き友人であり、かつて台湾で大統領から勲章を授与されたこともある。また、私の故

郷と思っている大分県へ何度も同行してくれた。彼が衆議院副議長を務めていた際には、台湾からの賓客を公邸に招いて接待し、皆に深い印象を残した。今日、過去の様々な出来事を語り合い、温かな感謝の気持ちで満たされました。





台湾表敬訪問記

日本台湾親善協会 会員 羽田 義彦

私が日本台湾親善協会の会員になったのは、約三年前のことです。税理士であり杖道七段の岩田善信先生からお誘いを受けて懇親会に出席したのが、入会のきっかけでした。以来、これまでは懇親会への出席のみでしたが、今回初めて表敬訪問団の一員に加えていただく機会を得ました。

普通の旅行では味わえないような貴重な体験をさせていただき、衛藤征士郎団長や李さん、そして団員の皆さまに心より感謝申し上げます。

【第二日目】 早朝に羽田空港を出発し、現地時間午前十一時頃、台北・松山空港に到着しました。到着後、まずは当会主催のランチ懇親会が開催されました。会場はカニ懐石料理の名店「月夜岩」で、北海道産の豪華なズワイガニに舌鼓を打ちました。

昼食後にホテルへチェックインを済ませた後は自由時間となりましたため、一人で台北の歴史地区を散策しました。清朝から日本統治時代にかけての建物が今なお残る「迪化街（ディーホアジエ）」は、台湾茶や漢方、乾物の老舗が軒を連ねる情緒溢れる街並みです。台湾の深い民間信仰に触れられる「霞海城隍廟」や、かつての台北城を偲ばせる「北門（承恩門）」などを巡り、台北の歴史の重層性を肌で感じることができました。

夜は伝統的な中華料理のフルコースを堪能しました。メインの北京ダックをはじめ、どのお皿も非常に素晴らしかったのですが、驚いたのはそのポリュームです。普段は大食漢を自負している私でも、最後は圧倒されて食べきれないほどの、誠に贅沢な宴となりました。

午後にかなり歩いたため、締めくくりには足裏マッサージへ。四〇分八〇〇元（約四、〇〇〇円）で足のツボをしっかりと揉んでいただき、その夜はぐっすりと眠ることができました。

【第二日目】 本日より、いよいよ本格的な表敬訪問が始まります。まず、日本の国会に相当する「立法院」を訪問いたしました。副院長の江啓臣（コウ・ケイシン）博士より熱烈な歓迎を賜り、國會餐廳（国会レストラン）にて昼食会を催していただきました。その際、江副院長より、台湾のTSMCでしか製造できないウエハー製の貴重な記念品が、当協会の衛藤征士郎会長へと手渡されました。



続いて本日のハイライトである「総統府」にて、頼清徳（ライ・チントー）総統を表敬訪問いたしました。数多くのテレビカメラが並び緊張感の中、頼総統によるポディウムでのご挨拶、続いて衛藤団長による返礼



のご挨拶が行われました。その後は通訳を介して着席し、終始和やかな雰囲気でした。今後、日台のサッカーチームによる親善試合の開催や、青少年の教育交流をさらに深めていくことが話し合われました。

本来、総統府内へのカメラ持ち込みは厳格に制限されていますが、頼総統のご厚意により、団員一人ひとりと握手を交わし、記念撮影に応じてくださいました。私は訪問団の一員として随行した身にすぎませんが、一国の首脳と直接握手を交わすことができ、誠に光栄な思いでした。

その後は地元のスーパーマーケットにてお土産の買い出しへ。観光客向けの品揃えも豊富で、免税店よりも手頃な価格で購入することができました。帰国後、パイナップルケーキや鉄観音などの茶葉は大変喜ばれ、良い買い物となりました。



夜は二手に分かれ、私は「台北一〇一」にある点心料理の名店「鼎泰豊（ディタイフォン）」を訪れました。本場の小籠包は非常に食べやすく、台湾ビールとの相性も抜群。一日の疲れが吹き飛ばすような夕食となりました。



【第三日目】 最終日は、朝から非常に密度の高いスケジュールとなりました。

午前一〇時、行政院にて卓榮泰（タク・エイタイ）院長を表敬訪問。続いて午前一一時には外交部を訪れ、葛葆萱（カツ・ホウケン）常務次長を表敬訪問いたしました。

それぞれのご挨拶では、台湾海峡の平和と安定の重要性が語られたほか、台湾のCPTPP（環太平洋パートナーシップ）に関する包括的及び先進的な協定をはじめとする国際機関への加盟が、地域の平和と安定に寄与することが改めて確認されました。

特に、日本と台湾は、言論の自由、法の支配、基本的人権の尊重といった「民主主義の根幹」を共有する重要なパートナーであることを再認識いたしました。また、経済・文化・スポーツを通じた民間交流こそが親善の基盤であるとの認識でも一致。

昨日に続き、青少年のサッカー親善試合の計画についても話題に上りましたが、やはり一番の盛り上がりを見せたのは、WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）での大谷翔平選手の活躍についてでした。スポーツの力が国境を越えて人々を結びつけることを、肌で感じるひと時となりました。

現在、日本と台湾の間の双方向の年間訪問者数は約八〇〇万人くらいとのことですが、今後はこれを一、〇〇〇万人以上へと引き上げていくことを目標に掲げ、互いに意気投合して全日程を締めくくりました。

続いて、台湾日本関係協会の謝長廷（シャ・チョウテイ）会長のお招きにあずかり、台北を代表する名門「圓山大飯店（グランドホテル）」にて昼食会に臨みました。中国宮殿様式の壮麗な建築と、眼下に広がる台北市街のパノラマはまさに圧巻。

台湾の歴史と品格を肌で感じさせる、極めて贅沢なひとときとなりました。

食後は、かつての要人たちの避難路として知られる「秘密の地下道」を見学



しました。ひんやりとした空気の中に歴史の重みを感じる、実に不思議な体験でした。

さらに、蒋介石総統の義理の姪にあたる孔二小姐（孔令俊）の旧居「孔二の館」を訪問。静謐な空気の中に、台湾の政治史を支えた時代の面影が今も色濃く残っています。

当時の華やかな暮らしぶりと、どこかミステリアスな時代の熱量に引き込まれ、台北の奥深い歴史を心ゆくまで満喫することができました。台湾の歩んできた歴史、豊かな文化、そして力強い人々の足跡に改めて思いを馳せる、大変意義深い一日となりました。

【まとめ】日本と台湾の間に正式な国交がないという現状の中、総統府をはじめ、立法院、行政院、外交部といった政府主要機関を網羅して巡る、極めて意義深い三日間となりました。

これほどまでの厚遇を賜りましたこと、頼総統をはじめ、各機関の皆様、そして台湾日本関係協会の諸先生方に、心より感謝申し上げます。今回の訪問における最大の収穫は、政治的な枠組みを超えた「民間交流」の重みを再認識できたことです。人と人との絆こそが、両国の未来を築く揺るぎない土台であることを、身をもって体験することができました。

この貴重な経験を糧に、今後も日台の懸け橋となれるよう尽力してまいりたいと思います。

我愛台湾！



事務局だより

* 令和八年度通常総会、懇親会の開催予定

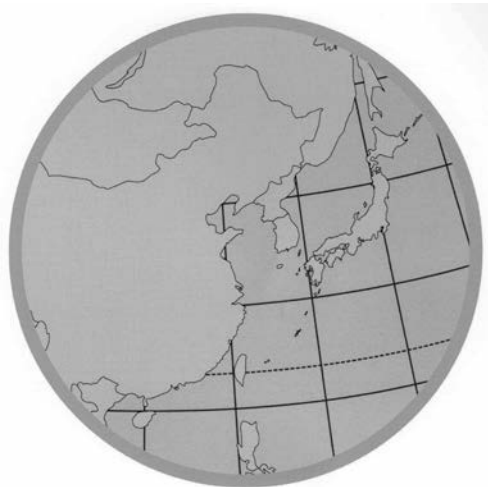
日時：令和八年五月二〇日（水）

一七時〇〇分〜一九時三〇分

場所：ルポール麹町 2F

「ルビー・サファイア」

アジアの民主と平和 日台友好親善にあなたの力を！！



只今、会員を募集しております。

入会の手続き

1. 事務局所定の入会申込書を提出していただきます。
2. 入会は、協会の理事会の議を経て承認されます。

法人会費 50,000円以上

賛助会費 30,000円以上

個人会費 10,000円以上

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 令和八年 春季号 (No.97)

発行日 : 令和8年4月15日

発行所 : 一般社団法人日本台湾親善協会

発行人 : 衛藤征士郎

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館2階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : 株式会社サンユー



台湾の翼 チャイナエアラインなら、 うまくいく。

日台の架け橋であるチャイナ エアラインは
日本国内主要15空港から台湾へ最多の直行便を運航
豊富なフライトネットワークから、最適なフライトスケジュールをご提案
充実の法人プログラム
フルサービス航空会社ならお仕事でのご利用も安心
あなたのビジネスパートナーにチャイナ エアラインをお選びください



Home page



Face book



X



Instagram